

平成 20 年度リスクコミュニケーションの取組について

食品安全委員会における取組

1．意見交換会

食品安全委員会では、主催又は共催により次ページの 25 件の意見交換会を開催した。このうち関係府省と連携して実施したものが 11 件、食品安全委員会と地方公共団体との連携によるもの 11 件である。

また、食品健康影響評価に関する意見交換会のほか、新たな取組みとして、消費者団体と連携した意見交換会、育成講座受講者を活用した意見交換会、サイエンスカフェを実施。(参考資料 1 - 1、1 - 2、1 - 3、1 - 4 を参照)

2．食品健康影響評価等に対する国民からのご意見、情報の募集

農薬、食品添加物等の食品健康影響評価(案)に対する国民からのご意見・情報の募集を実施した。 449 回

3．食品安全委員会委員等の講師派遣

地方公共団体の求めに応じ食品安全委員会委員、専門調査会専門委員及び事務局職員を講師として派遣した。 32 回(参考資料 1 - 5 を参照)

4．食品安全モニター会議

食品安全モニターの方々を対象に、食品安全委員会の役割・取組みや期待するモニター活動の内容について理解を深めていただくための会議を開催した。 10 回

5．モニター報告

食品安全モニターの方々から日常生活を通じてご意見をいただいた。 385 件

6．食の安全ダイヤル

食の安全ダイヤル(ダイヤル及びメールでの受付)において消費者等の直接の声に対応するとともに、よくある質問については Q & A としてホームページに掲載した。

1,069 件

7．食品の安全性に関する地域の人材育成講座(参考資料 1 - 6 を参照)

地域の指導者育成講座 15 回

リスクコミュニケーター育成講座(ファシリテーター型) 8 回

(インタープリター型) 7 回

平成20年度 意見交換会開催状況

| No | 開催日 | 会議名 | 開催地 参加人数 | 団体 地方公共 と連携 | 関係府 省 と連携 |
|----|--------|--|---------------------|-------------------|-----------------|
| 1 | 5月19日 | 体細胞クローン家畜由来食品に関する説明会 「体細胞クローン技術を用いた家畜に由来する食品について」 鈴木 章記(厚生労働省食品安全部基準審査課新開発食品保健対策室バイオ食品専門官) 「我が国における体細胞クローン家畜の研究開発の現状について」 渡邊 伸也(独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所 高度繁殖技術研究チーム上席研究員) 「クローン牛の食品としての安全性の研究(厚生労働科学研究平成11年度～平成14年度)」 熊谷 進(東京大学大学院農学生命科学研究科教授) | 東京都 149名 | | |
| 2 | 5月20日 | 遺伝子組換え微生物を利用した食品の安全性評価基準案に関する意見交換会 「微生物と食品、そして遺伝子組換え技術について」 正木 春彦(東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命工学専攻分子育種学研究室教授) 「遺伝子組換え食品(微生物)の安全性評価基準案作成の経緯」 澤田 純一(食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会座長) 「遺伝子組換え食品(微生物)の安全性評価基準案の概要」 五十君 静信(食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会専門委員) | 東京都 58名 | | |
| 3 | 5月23日 | 体細胞クローン家畜由来食品に関する説明会 「体細胞クローン技術を用いた家畜に由来する食品について」 鈴木 章記(厚生労働省食品安全部基準審査課新開発食品保健対策室バイオ食品専門官) 「我が国における体細胞クローン家畜の研究開発の現状について」 渡邊 伸也(独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所 高度繁殖技術研究チーム上席研究員) 「クローン牛の食品としての安全性の研究(厚生労働科学研究平成11年度～平成14年度)」 熊谷 進(東京大学大学院農学生命科学研究科教授) | 大阪府 141名 | | |
| 4 | 6月13日 | 食品に関するリスクコミュニケーション-食品からのカドミウム摂取に関するリスク評価について- | 大阪府 45名 | | |
| 5 | 6月18日 | 「食品からのカドミウム摂取の現状に係る安全性確保について」 香山 不二雄(食品安全委員会化学物質・汚染物質専門調査会専門委員) | 東京都 65名 | | |
| 6 | 6月30日 | 食品に関するリスクコミュニケーション(栃木) みんなで話そう! 食の安全 参加者がグループに分かれディスカッションを実施 | 栃木県、 宇都宮市 52名 | | |
| 7 | 7月25日 | 食品に関するリスクコミュニケーション-添加物のリスク評価と動物実験 - 「添加物についてのリスク評価の考え方と実際」 福島 昭治(食品安全委員会添加物専門調査会座長) 「ラットとマウスは『小さな人間』ではない! :動物実験に基づくリスク評価」 サミュエル・M・コーエン(ネブラスカ大学メディカルセンター病理学・微生物学教授) | 東京都 106名 | | |
| 8 | 8月27日 | 食品安全フォーラムinとやま<富山県> 「食品安全委員会の取組」 長尾 拓(食品安全委員会委員) 「食品の安全と安心～食品添加物を中心に～」 西島 基弘(実践女子大学生活科学部長) | 富山県 210名 | | |
| 9 | 10月9日 | とくしま食の安全・安心シンポジウム<徳島県> 「食品の安全性とリスク評価」 佐藤 洋(食品安全委員会化学物質・汚染物質専門調査会座長東北大学大学院教授) | 徳島県 62名 | | |
| 10 | 10月17日 | 食品に関するリスクコミュニケーション-ヨーロッパにおける微生物のリスク評価 - 「オランダおよび国際的な微生物のリスク評価」 アリー・ハペラー (オランダ国立健康環境研究所人獣共通感染症・環境微生物研究室副室長) | 東京都 66名 | | |
| 11 | 11月18日 | 食品に関するリスクコミュニケーション-こんなこと聞いてみたかった、農薬のこと- | 東京都 138名 | | |
| 12 | 11月27日 | 食の安全・安心シンポジウム<岐阜県> 「食品安全委員会の活動内容」 戸部 依子(内閣府食品安全委員会事務局技術参与) 「食の安全情報」 松永 和紀(科学ライター) | 岐阜県 121名 | | |
| 13 | 11月28日 | 食の安全・安心に関するリスクコミュニケーション(意見交換会) みんなで話そう! 食の安全・安心! ~ 農薬を中心として ~ 「食品安全委員会の取組とリスク評価について」 廣瀬 雅雄(食品安全委員会委員) | 高知県 154名 | | |
| 14 | 12月2日 | とちぎ食品安全フォーラム 「食品の安全性の確保について 食品添加物を例として」 小平 均(内閣府食品安全委員会事務局リスクコミュニケーション官) | 栃木県 125名 | | |

| No | 開催日 | 会議名 | 開催地 参加人数 | 地方公共 団体と連携 | 関係府省 と連携 |
|----|-------|--|-------------|---------------|-------------|
| 15 | 12月5日 | 食品に関するリスクコミュニケーション - 北米におけるかび毒のリスク評価 - 「食品中の天然毒物」 チネケ・キューパー(カナダ保健省健康製品・食品部門食品自然毒リスク評価チームリーダー) | 東京都 35名 | | |
| 16 | 1月17日 | 食育シンポジウム～安全で豊かな食生活を目指して～ 「食品の安全性とは～食品安全委員会の活動～」 小平 均(内閣府食品安全委員会事務局リスクコミュニケーション官) | 静岡県 90名 | | |
| 17 | 1月20日 | 食の安全を科学する「サイエンスカフェ」 「安全な食べものって何だろう～健康を守るからだのしくみ～」 小泉直子(食品安全委員会委員長代理) | 東京都 26名 | | |
| 18 | 1月22日 | 食品に関するリスクコミュニケーション - OIEコードの改正等に関する意見交換会 - 「国際基準をめぐる最近の状況について」 小川 良介(農林水産省消費・安全局国際基準課長) 「BSEコードに関する改正提案の概要について」 「豚コレラに関する改正提案の概要について」 川島 俊郎(農林水産省消費・安全局動物衛生課国際衛生対策室長) | 東京都 54名 | | |
| 19 | 1月30日 | 食品に関するリスクコミュニケーション(大分) - みんなで話そう! 食の安全 参加者がグループに分かれディスカッションを実施 | 大分県 48名 | | |
| 20 | 2月3日 | 食品安全セミナー 「食品安全委員会の取組とリスク評価について」 廣瀬 雅雄(食品安全委員会委員) | 秋田県 178名 | | |
| 21 | 2月27日 | 食品に関するリスクコミュニケーション - 食品安全を伝えるリスクコミュニケーションをいかに進めるか - 「リスク認知 - 基本的知見と教訓 -」 オートウィン・レン(シュトゥットガルト大学環境社会学科教授) 「日本人は何に不安を感じているか」 中谷内 一也(食品安全委員会リスクコミュニケーション専門調査会専門委員 帝塚山大学心理福祉学部教授) 「環境分野におけるリスクコミュニケーション」 広瀬 幸雄(名古屋大学大学院環境学研究科教授) 「食品安全分野におけるリスクコミュニケーションの状況」 唐木 英明(食品安全委員会リスクコミュニケーション専門調査会専門委員 東京大学名誉教授 日本学術会議副会長) | 東京都 141名 | | |
| 22 | 3月4日 | 食の安全を科学する「サイエンスカフェ」第2話 「すべての物質は毒であり、薬である？」 小泉直子(食品安全委員会委員長代理) | 東京都 37名 | | |
| 23 | 3月13日 | 食品に関するリスクコミュニケーション - もっと知りたい食品添加物 - 「食品添加物のリスク管理について」 小山田 光孝 (厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課基準策定専門官) 「食品添加物のリスク評価について」 廣瀬 雅雄(食品安全委員会委員) 参加者がグループに分かれディスカッションを実施 | 岡山県 85名 | | |
| 24 | 3月24日 | 食品に関するリスクコミュニケーション - 体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価について - 「体細胞クローン技術を用いて産出された牛及び豚並びにそれらの後代に由来する食品の 食品健康影響評価(案)について」 早川 堯夫(食品安全委員会新開発食品専門調査会ワーキンググループ座長 近畿大学薬学総合研究所所長) | 東京都 76名 | | |
| 25 | 3月27日 | 「体細胞クローン動物における全能性の獲得について - エピジェネティクスについて -」 塩田 邦郎 (食品安全委員会新開発食品専門調査会ワーキンググループ専門参考人 東京大学大学院農学生命科学研究科教授) | 大阪府 50名 | | |

8 . 消費者団体、食品関連事業者、地方公共団体等と委員との意見交換 4回

9 . 食品安全委員会メールマガジン

週1回配信し平成20年度3月末で138回配信

また、食品の安全性に関する事案についての情報をホームページへ掲載した際に、速やかにお知らせするために臨時のメールマガジンを6回配信

平成21年3月末の登録者数 約6,900名

10 . 季刊誌『食品安全』

平成20年 9月 特別編集号発行

平成21年 1月 第17号発行

平成21年 3月 第18号発行

11 . ホームページ、パンフレット、DVD等

ホームページの充実を図るとともに、食品の安全に関する各種パンフレットを意見交換会の場などを通じて幅広く配布した。また、映像媒体、啓発素材として以下のDVDを作成し関係者に配布した。

DVD : 「よくわかる！食品安全委員会 ～食品の安全性をどう守るの？～」

12 . 食育

第3回食育推進全国大会におけるブース出展

ジュニア食品安全委員会の開催

厚生労働省における取組

1. 意見交換会の開催等

(1) 厚生労働省主催の意見交換会等

開催状況

以下のとおり、計 12 回の意見交換会・説明会を開催した。

| テーマ | 開催時期 | 開催場所 |
|-------------------------|--------------|----------|
| 体細胞クローン家畜由来食品 (2回) 1 | 平成 20 年 5 月 | 東京、大阪 |
| 特別用途食品の見直し(2回) | 平成 20 年 10 月 | 東京、大阪 |
| 農薬 2 | 平成 20 年 11 月 | 東京 |
| 器具・容器包装、おもちゃの 規格改正等 | 平成 20 年 12 月 | 東京 |
| H A C C P に基づく衛生管理 | 平成 20 年 12 月 | 愛知 |
| 輸入食品の安全性確保(3回) | 平成 21 年 1 月 | 東京、大阪、福岡 |
| 健康食品 | 平成 21 年 2 月 | 北海道 |
| 食品添加物 3 | 平成 21 年 3 月 | 岡山 |

1：農林水産省と共催

2：食品安全委員会、農林水産省及び消費者団体と共催

3：食品安全委員会、岡山県と共催

開催の形式

- ・ 募集規模は、概ね 200 人程度で実施
- ・ 主に前半をテーマに係る説明や講演、後半をパネルディスカッション及び会場との意見交換の形式で実施
- ・ パネリストは主に、開催地の消費者団体、事業者等に依頼
- ・ H A C C P に基づく衛生管理をテーマとし、消費者を対象に総合衛生管理製造過程承認施設等の見学を含む現地視察型の意見交換会を実施

(2) 関係府省及び都道府県等主催の意見交換会等への参加
担当官を講演者、パネリスト等として派遣した。

関係府省主催の意見交換会への参加

- | | | |
|-------------------|----|-----|
| ・ カドミウム（食品安全委員会） | 2回 | |
| ・ かび毒（食品安全委員会） | 1回 | |
| ・ O I Eコード（農林水産省） | 1回 | 計4回 |

都道府県等主催の意見交換会への参加

- | | | |
|----------------------------|----|-----|
| ・ B S E（神奈川県、山形県（山形市、酒田市）） | 3回 | |
| ・ 輸入食品（秋田県） | 1回 | 計4回 |

2. 情報の発信

(1) ホームページによる情報発信

厚生労働省のホームページに「食品安全情報」のページを設け、報道発表資料、食品の安全に関するQ & A、審議会等の会議資料、食品安全に係る施策の情報などを掲載・引用している。ホームページの掲載内容について、より分かりやすいものとなるよう、整理を行った。

「食品安全情報」URL：

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/index.html>

(2) パンフレット等の作成・配布

食品の安全に関する各種パンフレット等を、都道府県等を通じて、又、意見交換会などの場を通じて幅広く配布するとともに、ホームページにも掲載した。なお、これらのパンフレットは、ホームページからも入手できるようにしている。

本年度は、以下のパンフレットを作成・改訂した。

- ・「加工食品のアレルギー表示（改訂版）」（平成20年4月）
- ・「知っておきたい食品の表示（改訂版）」（平成20年7月）
- ・「これからママになるあなたへ 食べ物について知っておいてほしいこと」（妊婦向け）（平成20年12月）
- ・「家庭でできる食中毒予防6つのポイント」（平成21年2月）
- ・「食中毒を疑ったときには」（医師・医療機関向け）（平成21年3月）
- ・「アレルギー物質を含む加工食品の表示ハンドブック」（事業者向け）（平成21年3月）

3. 意見募集（いわゆるパブリックコメント）の実施

「食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部改正」、「輸入加工食品の自主管理に関する指針（ガイドライン）（案）」、「平成 21 年度輸入食品監視指導計画（案）」についてなど 46 件の意見募集を実施した。

4. 関係府省との連携・消費者団体との交流の促進

4 府省（内閣府食品安全委員会、農林水産省、環境省及び厚生労働省）リスクコミュニケーション担当官連絡会議を月 2 回程度の頻度で開催し、情報交換を行うなど、関係府省が連携してリスクコミュニケーションの推進を図っている。また、食品安全委員会リスクコミュニケーション専門調査会において、厚生労働省のリスクコミュニケーションの取組状況について逐次報告を行った。

消費者団体が開催する勉強会などに参加し、説明や意見交換を行った。

5. 食品の安全性に関する情報提供のあり方懇談会

今後リスクコミュニケーションを推進するにあたり、国民が食品のリスクを正確に認知し、自らが情報を選別するとともにその情報に基づき適切に判断できることが重要であることから、行政やマスメディアなど情報を発信する立場の者の情報提供のあり方や食品のリスクに関する考え方などについて幅広く意見を聞くため、「食品の安全性に関する情報提供のあり方懇談会」を平成 20 年 7 月に立ち上げ、平成 21 年 3 月まで 4 回にわたり関係者との意見交換を行い、意見をとりまとめた。

6. その他

（1）リスクコミュニケーション担当者の研修

国立保健医療科学院食品衛生管理コースにおいて、リスクコミュニケーションに関する科目を設け、都道府県等の食品衛生監視員に対する講習を実施した。

（2）食育

第 3 回食育推進全国大会（平成 20 年 6 月、群馬県前橋市、内閣府主催）に参加し、パンフレットの配布等を行った。

(3) 子ども霞が関見学デー

平成 20 年度子ども霞が関見学デー（平成 20 年 8 月）において、「楽しく学ぼう「食の安全」」を 2 日間にわたり開催し、小学生などを対象に、クイズや標語の作成を通じて食品の安全について学ぶ機会を設けた。

(4) 食品安全モニター

内閣府食品安全委員会の依頼を受けた「食品安全モニター」の報告のうち、食品安全部の所掌事務と関連するものについては、当部で回答を作成して内閣府食品安全委員会事務局に提出した。

また、食品安全モニター会議に担当官が出席し、食品安全部の所掌事務と関連する質問等に対応した。

農林水産省による取組

1. 消費者等との意見交換会等の開催

(1) 農林水産省本省における意見交換会等

全国各地で各種テーマに関する意見交換会等を 18 回開催した。なお、必要に応じて食品安全委員会、厚生労働省と連携して開催した。

- ・農林水産省（本省）企画の意見交換会等 5 回
- ・地方農政局等企画の意見交換会等 10 回
- ・食品安全委員会・厚生労働省企画の意見交換会等 3 回

体細胞クローン家畜由来食品関係

- ・体細胞クローン家畜由来食品に関する説明会
(平成 20 年 5 月 19 日 東京都、5 月 23 日 大阪府)

植物防疫関係

- ・見て！聞いて！植物防疫
～ 海外の病害虫から日本の農産物を守る～
(平成 20 年 8 月 7 日 愛知県(中部国際空港))
- ・環境にやさしい病害虫の防ぎ方～農薬だけに頼らなくても病害虫は防げます～
(平成 21 年 1 月 29 日 大阪府、平成 21 年 3 月 6 日 新潟県)

家畜衛生関係

- ・ご存じですか？動物検疫～動物の病気を持ち込まないために～
(平成 20 年 12 月 15 日 千葉県(成田国際空港))
- ・食品に関するリスクコミュニケーション
(OIE コードの改正等に関する意見交換会)
(平成 21 年 1 月 22 日 東京都)

(2) 地方農政局等における意見交換会等

全国の 7 地方農政局、沖縄総合事務局、39 農政事務所により実施した。

- シンポジウムや意見交換会等 1,572 回(平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)(含む)
- パネリストや講師の派遣 3,099 回(平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月)

2. 情報の提供

- (1) 消費者団体等の関係者が各地で行う勉強会へ積極的に参加するとともに、特に地方農政局等においては地域のネットワークを活用した情報提供を実施した。
- (2) 農林水産省本省、地方農政局及び(独)農林水産消費技術センター等のホームページを通じて、関係者に情報を提供した。
- (3) メールマガジン「食品安全エクスプレス」により、農林水産省をはじめ、食品安全委員会や厚生労働省の食品の安全と消費者の信頼の確保に関する情報を提供した。
(毎日)

・平成 21 年 3 月 31 日現在の配信数：15,171 通

3. その他

- (1) 意見・情報の募集(パブリックコメントの実施)
食品の安全や家畜衛生、植物防疫等に係る規制の設定又は改廃の決定に際し、意見や情報の募集を 38 件実施した。(平成 21 年 3 月 31 日現在)
- (2) 関係行政機関との連携
リスクコミュニケーションの実施に当たっては、食品安全委員会のリスクコミュニケーション専門調査会や、関係府省リスクコミュニケーション担当者連絡会議などを通じ、内閣府食品安全委員会、厚生労働省などの関係行政機関と緊密な連携を図った。